

2. ケアラー支援を担う人材の育成

(1) ボランティアの養成

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) －(終了)
①ケアラーに代わって被介護者を自宅で見守り・サポートができる体制を図るため、町民ボランティアを養成します。	社会福祉協議会を中心に、養成研修を企画立案中。令和4年度に実施を予定している。	△	→
②ボランティアの能力開発を目的とした研修を開催します。	ケアラーサポーターによる、いのちのバトン配布世帯に訪問活動を令和3年11月より行っているが、実施にあたり、訪問前に事前説明会を行っている。今後は、継続的な研修や、①のボランティア講座対象者へスキルアップを働きかけることも検討している。	○	→
③支援が必要な町民(ケアラー含む)の日常生活のサポートが行えるよう、支え手と受け手を繋ぐ仕組みとしてボランティアセンター機能を拡充します。	社会福祉協議会を中心に、生活支援の仕組みづくりを進めている。	△	→
評価(意見・要望)		施策の方向性	
・有償・無償ボランティアを養成・登録しても、ケアラー本人との意思疎通がないと頓挫する危険があります。一番簡単な作業から、専門的な対応までを考慮すると大変なストレスがかかります。まず、近所の方に留守番を短時間依頼するとか、面識のある人の援助から始めたらいかがでしょうか。		・これまでの地域内でのつながりを大切にしながら、「できることをできる範囲内で行う」主旨で地域の支え合い活動の推進を目的とした生活支援体制整備事業において、住民の皆様の	

	理解と協力を図ってまいります。
・高齢化率41%、人口1万人を切ろうかという栗山町で町民ボランティアの養成は厳しいのではという思いがあります。 ・町民ボランティアの養成はどのような方法で養成するのか。 ・有償ボランティアの育成を ・福祉の人材不足が顕著で、今後無償でのボランティアについてはなり手がいない状態であることから、介護を仕事とする有償のボランティアを育成することが求められる。 ・社協による傾聴ボランティア育成研修を開催により育成 ・福祉課が養成した認知症サポーターへの依頼 ・子どもお話し隊を養成しケアラー世帯と交流を ・老人クラブに町で資金を支援してシニアボランティアを養成し、家事援助やゴミ出しなどケアラー世帯のお世話をします。 ・町民同士での支えあいを助長するため。	・ボランティア養成にあたっては、社会福祉協議会にて、養成研修を検討しており、活動にあたっての訪問先等への対応や意思疎通等がスムーズに行われるよう、研修内容を検討いたします。 ・試行的な試みとして、「ちょこっとボランティア」の実施を予定しております。実施経過や、その課題は、委員の皆様とも共有いたします。
ケアラーサポーターとして今現在活動していますが、スキルアップめざして研修会を開催してほしいです。	・ケアラーサポーターを含めて、スキルアップを目的とした研修も予定しています。

(2) 北海道介護福祉学校との連携

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) －(終了)
講師派遣等の技術的支援や人材養成の研修プログラムの開発など、北海道介護福祉学校と連携を図ります。	NHK 公開イベントに介護福祉学校学生を派遣予定。ケアラズカフェの運営体験などのイベントを行った。連携の在り方については、検討課題。ボランティアの研修や、専門職に対しての研修などに技術的な助言や、講師派遣依頼なども検討している。	△	→
評価（意見・要望）		施策の方向性	
・これはケアラー支援のイベントの一環ととらえます。参加する町民の方への意識づけが大切です。 ・学校の存続問題も出ておりますが、人材育成や講師派遣など学校あつての施策だと思います。 ・北海道介護福祉学校との連携は介護職員をめざす生徒の教育にもなり、ボランティア研修にも役立つと思われる。 ・町内にある貴重な教育機関であり、資源を活用することが町民への還元につながる。 ・介護学校の学生確保のために本町でのケアラー支援活動が次代を捉えた先駆的な取り組みであることを全道にアピールし、ケアラー支援法の制定や介護保険法改正（介護福祉士やケアマネの待遇改善）につながるメッセージを発信することが重要である。		・NHKの公開イベントでは、北海道介護福祉学校の学生協力があり、今後とも、様々なイベント実施時に連携を図ることを検討してまいります。 ・講師派遣などの技術支援や研修プログラム等の開発にあたっては、学校とも連携を図る予定です。また、ケアラー支援に関連付けながら情報発信を検討いたします。	